

平成27年度 第2回宝塚市総合教育会議

- 1 日時 平成27年6月25日(木) 午後1時～午後3時
- 2 場所 宝塚市役所3階 特別会議室
- 3 出席者 (構成員) 中川市長、小野教育委員長、井上教育委員、川名教育委員、種谷教育委員、井上教育長
(事務局) 企画経営部長、管理部長、学校教育部長、社会教育部長、政策室長、管理室長、政策推進課長、教育企画課長、政策推進課係長、教育企画課係長

4 内容

■開会

■中川市長あいさつ

第1回の総合教育会議で、宝塚市総合教育会議運営要綱及び宝塚市総合教育会議傍聴要領を制定し、総合教育会議をスムーズに発足させることができました。

また、宝塚市の教育をさらによくするための意見交換を行い、教師の教育力の向上、子どもの読書活動、あいさつ運動、校区の問題、教育への予算などについて、多岐にわたった御意見をいただき、大変有意義なものとなりました。

今回は第2回目ということで、前回議論されました宝塚市教育大綱に加え、子どもたちの安全・安心についても議題としています。

前回同様、活発な御意見を頂戴したいと考えております。

■傍聴

○中川市長 この会議は原則公開とすることとしています。本日の議題には非公開とするものがないと思います。本日の傍聴希望者はいらっしゃいますか。

○事務局 6名の傍聴希望者がいらっしゃいます。

○中川市長 わかりました。では、お入りください。

(傍聴者入室)

○中川市長 それでは、次第により会議を進めてまいります。

■議事

議題1 宝塚市教育大綱について

(資料1に基づいて、事務局より説明)

○井上委員 「3 教育の方向性」で、「教育の出発点は、幼児教育」とあります。その後、「幼児教育に重点を置くとともに、小・中学校との連携を図って教育を進めます。」となっていますが、幼・小・中の連携ではないのでしょうか。

○種谷委員 「市では、この人間形成の基礎づくりとなる幼児教育に重点を

置くとともに、小・中学校との連携を図って教育を進めます。」とあるので、幼・小・中との連携になると、幼が2回出てくると思います。

○川名委員 幼児教育を主語として、幼児教育と小・中を連携しますということですので、このままでよいのではないのでしょうか。

○井上委員 そうですね。

○中川市長 それではこのままといたします。

他に、御質問がないようであれば、宝塚市教育大綱をこの内容で決定してよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

○中川市長 ありがとうございます。それでは、そのように決定させていただきます。

議題2 子ども達の安全・安心について

○中川市長 まず事務局から議題についての説明をお願いします。

○事務局 学校生活または、通学途上や放課後などの学校生活以外でさまざまな危険が潜んでいますので、多様な角度からの意見交換をお願いします。

○井上委員 子ども達の安全・安心を守るには地域の協力が不可欠です。登校時は集団登校ですが、下校時はそうではないので、地域の人たちが子どもたちに声をかけて、常に注意していく状況をつくっていかねばならないと思います。

また、地域にお願いするだけでなく、地域の人たちに挨拶をしない子どももいますので、子どもから積極的に言葉がけをできるようにしてほしいと思います。

○川名委員 川崎市の事件は重く心に残っています。

携帯電話の普及等で、子どもたちの生活が大人から見えにくくなっています。不登校になった場合は、無理に学校へ来いと言う前に、少なくとも所在だけは知っておかないといけません。スクールソーシャルワーカー（以下、SSWという。）などの力を借りた取り組みを強化すべきです。

○中川市長 所在確認の状況を教えてください。

○井上教育長 市で所在確認した際、2人と連絡が取れないことがありましたが、その後、確認ができましたので、現在はいません。

ただ、不登校の数は年々増えていますので、今後対策に力を入れていきたいと思っています。

○事務局 学校を欠席した子どもについては、必ず学校から連絡を取って、

どんな状況か確認するようにしております。場合によっては家庭訪問もしています。

○井上委員 先生の負担を考えると、不登校の情報を地域に伝えて見てもらえるというようなシステムはできないのでしょうか。

○小野教育委員長 大阪府の中には、学校に来ない子を地域で迎えに行くことまでしている小学校もあります。そのレベルに到達するのは、大変難しいことですが、少しでも地域を巻き込みながら、不登校対策ができれば理想だと思います。

○中川市長 学校に行きなさいと無理に引っ張っていくのは限界があると思っています。

最近のフリースクールや、また家での勉強をカウントして卒業できることは望ましいと思っています。昔の偉人の中には学校に行かず自分で勉強した人もいたので、学校が全てという時代ではなくなるかもしれません。

地域でということはよくわかりますが、学校に行けないという情報も学校だけにしてほしいという親や子どももいますので、それは難しいと思います。

○種谷委員 今、教育委員会で教育振興基本計画の見直しをしていて、不登校については、モデル校を指定して、改善していくこともできないかと考えています。また、フリースクールについても、今後検討していきたいと思っています。

ただ、地域で見守っていくことは理想的ですが、個人情報保護法の観点で、親権者の了解がないと、不登校の事実を地域に知らせることは難しいです。

○川名委員 不登校の初期は、学校へ行っていない自分を受け入れられず辛い思いをします。また、親も不登校の事実を知られたくないと思っている場合が多いです。

地域に知らせることは、法的だけでなく心情に配慮すると難しいので、専門家やSSWなどの力が必要だと考えています。

ただ、不登校の期間が長くなって、子どもの命にかかわるようなことになってはいけないので、所在確認をしないとイケません。

○種谷委員 本人や親権者に無断で第三者に情報を流すことはできませんが、生命、身体に何か危険が生じているときには、本人や親権者の了解なく提供することはできます。ただ、そこに至るまでに救ってあげられないかと思っています。

○中川市長 所在確認の詳細を教えてください。

- 事務局 2人とも中学生です。1人は地域にいることはわかっていましたが、学校と直接連絡が取れないので、何度も家庭訪問や電話連絡をする中で本人と出会えて、安全確認ができました。
- もう1人は、友達関係で悩みがあって学校に行きづらい中、市外の友達と付き合うようになり、転々としてどこにいるか確認ができなかったのですが、本人から修学旅行などの学校行事に参加したいと連絡があり、安全確認ができました。この子どもは、現在学校に来られるようになっています。
- 中川市長 所在確認はマニュアル化されていますか。
- 事務局 学校では、ほぼ毎日連絡を取っており、家庭訪問も日々行っていますが、本人が出られない、あるいは住所を転々している場合があります、確認ができないという実態があります。
- 小野教育委員長 今回は家族とも連絡が取れなかったのですよね。家族と関わることができれば、子どもがどうしているかがわかります。
- 事務局 最初のケースでは、始めのうちは家族から休みの連絡があったのですが、そのうち連絡もなくなってきて、連絡が取れなくなったという状況です。
- 川名委員 連絡が取れなくなったり家族と接触できないというのは、家庭全体にサポートが必要な場合が多いです。経済的な問題やDVが絡んでいると、学校だけでは解決できないので、SSWや児童相談所など、外部の機関や専門家と連携を取って、教育委員会でサポートしていくのがよいと思います。
- 井上教育長 他市と比べるとSSWの数と時間は多いです。年々拡充していますが、悩みのある子どもも多く、まだまだ必要な状態です。他に、不登校の子どもの悩み相談などは適応教室（P a l たからづか）でも行っています。
- また、保護者が地域に悩みを打ち明けられるかということ、保護者同士でも難しい。
- 中川市長 あと、フレミラ宝塚で行っている、不登校の子どものボランティア活動を通じて、学校に行けるようになるケースもあります。
- 不登校になると、家庭背景の見極めが大切です。期間が短ければ学校に戻りやすいが、何カ月も経つと戻りにくい。課題の1つとして、所在確認は常に頑張っていたきたいと思います。
- また、最近の犯罪であれば、子どもの連れ去り事件がありますが、そのあたりは、どのようにお考えでしょうか。
- 井上委員 安全面から考えると、下校時は寄り道せずに、通学路を帰って

ほしいです。

また、アトム110番の表示が、一部、道路に面していない場所や周りから見えにくい場所に設置されているものがあるので、一度調査していただきたいです。

○小野教育委員長 昔はたむろが問題視されていましたが、最近はSNSなどで連絡を取っているので、たむろがなくなったと言われていました。

犯罪防止には、パトロールなどを行って、補導員や地域が目があることを知らせる必要があります。もちろん、パトロールの最中は何も起こらないかもしれませんが、こうやって歩いていることを周りに知らせることが大切です。

あと、子どもが知らず知らずのうちにインターネットを介して被害者になる恐れがあります。小学生や中学生のうちから、インターネットの怖い一面についても勉強することが必要です。

○中川市長 議会では防犯カメラの台数が少ないと言われていました。また、伊丹市では、防犯カメラ1,000台の追加設置を決めました。そこで、防犯カメラについての御意見はありませんか。

○種谷委員 防犯カメラの設置によって犯罪率の低下につながるという客観的なデータはありますか。

○中川市長 伊丹市では、今後データを取っていくと言っています。

○小野教育委員長 防犯カメラを設置することで、抑止効果になりませんか。

○種谷委員 例えば、性犯罪は再犯率が高いこともあり、本当に防犯カメラを設置することが抑止効果につながるのでしょうか。

○川名委員 犯罪後に有効なのは間違いないですが、抑止効果があるかどうかは難しいです。それよりは、地域で声をかけあうほうがずっと抑止効果があると思います。

まちの至るところに防犯カメラがあることが安心だと思い、そういうまちに住みたいと思うのか、それとも、顔見知りが多い地域をつくっていきたいと思うのかは、市民の選択です。

これはデータで出ていますが、空き巣が少ない地域は、防犯カメラを設置している地域ではなく、知り合いが多い地域です。

○中川市長 宝塚市でわいせつ犯罪が多いことは確かです。警察では、犯罪が起きている場所に防犯カメラを設置すると、ある程度の抑止効果はあるということです。

○川名委員 どういった場所で犯罪が起きているか、調べて分析したほうがよいです。共通点があるはずです。

○中川市長 警察では、犯罪が少ない条件として、「挨拶の多い地域」と

「明るさ」と「声を出すこと」の3つが挙げられます。

子どもには、自分の身は自分で守るために、下校時はなるべく1人で帰らない、また暗いところは避けることが大切です。

○川名委員 全ての学校でC A Pを実施するようにしたらどうですか。怖いと声が出なくなるので。

○種谷委員 防犯カメラに戻りますが、映っている範囲は抑止効果があるかもしれないが、死角になる箇所があります。

○小野教育委員長 ある地域では、防犯カメラを設置後に、防犯カメラがあるという看板を多く設置することで、ごみの不法投棄が減りました。

もし、抑止効果として明るさが必要であれば、夜間用の防犯カメラを設置するより、街灯を設置したほうがよいのではないのでしょうか。

○中川市長 警察では、わいせつ犯罪は繰り返す、また被害者が被害届を出さないことが多いので、防犯カメラの映像を元に逮捕することが必要です。街灯と防犯カメラはまた別の理論となります。

○種谷委員 警察で犯罪が起きやすい場所がわかっているのであれば、防犯カメラを設置するかどうか、市民の皆さんの御意見も踏まえて考える必要があります。

また、学校との関係としては、通学路に防犯カメラを設置するという選択肢があるのかもしれませんが。

○井上教育長 通学路の安全は、ハード面やソフト面など広い範囲となりますが、一番は、交通安全です。地域・保護者・学校で通学路の安全点検しており、地図を作ったりして、危険な箇所をおおよそ把握しています。防犯カメラの必要性和優先度について、地域と議論していけばよいと思います。

○小野教育委員長 地域では、交通安全に関しても様々な要望が出ていますよね。

○井上委員 スクールゾーンで通行止めであっても、車が入ってきます。地域の見回りでは効果がなく、警察に巡回していただくなどの依頼はできないでしょうか。

○中川市長 一度、警察にお願いしてみます。

また、学校としてC A Pの必要性は感じていますか。

○事務局 学校では、C A P以外の安全教育をしています。C A Pの回数が増えた理由として、予算の問題があります。他の安全教育を実施したり、何年かに1回実施する形にしています。

○川名委員 防犯カメラは1万台設置しても安心はできません。子どもが1回学習すると将来に向けて力になります。予算に考慮していただ

けないでしょうか。

- 中川市長 CAPの1回の費用はどのくらいですか。
- 井上委員 一番安いもので約3万円です。
- 井上教育長 各学校では、予算内で実施しなければならないことが多くあり、優先順位の高いものから実施しています。もし、予算がないから実施できないのであれば、対応する必要があります。
- 事務局 学校でのCAP実施状況については確認します。
- 中川市長 では、不登校や所在確認の問題、防犯カメラ、CAPについては、またの議論とします。
- 他にも、例えば、防災の面でもお気づきのことがあると思いますので、御意見をよろしくお願いします。
- 井上委員 災害時は、保護者が迎えに来るということになってはいますが、風雨が激しい時に迎えに来ること自体が危険だと思いますので、警報解除後しばらくの間は学校で待機して、落ちついてから迎えに行くことはできないのでしょうか。
- 事務局 学校ごとに緊急時の連絡網を整備しています。
- 保護者にいつ迎えに来てもらうかについては、子どもの安全が第一ですので、学校で待機し安全な状況の中で引き継ぎをしています。学校によっては、集団下校に先生が付き添うことで帰宅する場合があります。
- 種谷委員 一番雨がひどいときに集団下校していることが何度かありました。天候については大きな予測は立つと思うので、下校のタイミングを考慮してほしいです。
- 井上委員 帰宅しても子どもが1人で留守番をするのであれば、学校で待機するほうが安全だと思います。
- 事務局 保護者が働いている場合は、親戚などの受け入れが可能でない限りは、保護者と連絡が取れるまで学校で責任を持ってお預かりします。
- 川名委員 地震などの急な災害についても、大規模校は特に心配していません。普段から対応を考えておかないといけないと思います。
- 井上委員 避難経路が1カ所しかない学校があります。何かあったときに、道路が塞がってしまったら、出られないのではないのでしょうか。
- 事務局 対応力を身につけるために、火災、地震などの様々な災害を想定し、休み時間なども活用して、学期ごとに1回程度、避難訓練を行っています。
- 大規模校は、一度に動く危険なので、どのような手順で動く

のか、学校ごとに防災計画に定めています。

○井上教育長 議会でも以前から、防災対策として道路の必要性が出ています。

○中川市長 以前、ある小学校の避難訓練を見たときに、一生懸命な子どもとそうでない子どもがいて、温度差がありました。回を重ねるごとに学んでいくのでしょうか。

○事務局 訓練時には、消防署からも厳しく指導されていますので、子どもはその都度どうすればよいか学んでいます。

○井上委員 災害時には、地域の中学生、高校生が主力になって動いてほしい。避難するだけではなく、炊き出しなど、身につくような訓練をしたほうがよいと思います。もっと地域と連携してやっていけないでしょうか。

○中川市長 学校ごとに、アルファ化米を炊いたり、すいとんをつくったりなど、避難訓練に合わせて取り組んでいます。

○事務局 地域防災と連携した訓練を年に1回程度実施し、小学校高学年の子どもたちが地域に物資などを配る役割などもしています。

○中川市長 以前、刃物を持った男性が市内を歩いていると、各学校に注意を呼びかけたときに、情報を入手できた保護者とできなかった保護者がいて、混乱したことがありました。

○事務局 今はほとんどの学校で、保護者の連絡網を携帯メールで配信しており、緊急時にも活用しています。ただ、中にはその連絡網に入っていない保護者もいますので、別途直接連絡しています。

○井上教育長 子どもを守るために、学校施設の耐震化を優先して取り組んでいましたが、今年度、耐震化100%の目処がつかしました。

今後は、どれだけの予算をかけられるか分かりませんが、施設の老朽化やトイレ改修を検討していかなければならないと思っています。

○小野教育委員長 ボランティアで小学校のトイレを掃除することがあります。大便器の周りなどの床の水はけが悪いので水が床に溜まってしましますが、それでも子どもたちは使わざるを得ません。子どもが掃除すると床の水までふき取らないので、せめて水はけだけでも直してほしいです。

○川名委員 日本は世界一トイレがきれいと言われていますが、学校でトイレを借りると、そう思えません。

○中川市長 子ども議会でトイレの要望が出ないことはありません。もう掃除しても限界があるトイレもあるので、耐震化が終了したら、できるところからトイレを改修していきたいです。

- 井上教育長 幼稚園では和式トイレが1つだけあります。その理由は、家ではほとんど洋式で、子どもが和式トイレの使い方がわからなくなってきているからです。
- 種谷委員 私の子どもも和式トイレを見て、どうやって使うのかと、とても嫌がります。また、和式トイレのある施設も多いので、対応できるように、練習のためにあると思います。
- 井上教育長 話は変わりますが、安全・安心の面としての給食です。宝塚市は日本一の給食を目指して取り組んでおり、あと数校で全校自校炊飯となります。学校は避難所になるので、いざというときに温かいものが炊けるほうがよく、できるときに施設改修を進めていきたいと思っています。
- 中川市長 阪神淡路大震災で学校が避難所になったときに、ボランティアとして、給食室で炊き出ししたいとお願いしましたが、火事になるからと開けてくれませんでした。何のために自校調理しているのかと憤りました。
- ですから、災害時に給食室をどう使用するのかというのを、あらかじめ決めておくべきだと思っています。
- 事務局 阪神淡路大震災当時は、各学校での給食室は炊き出しに使えませんでした。現在はそういうことはありません。
- 井上委員 自校炊飯は評判がよいです。子どもたちが、おいしいと保護者に言うと、食べたいという大人が出てくると思います。
- 中川市長 将来的には、高齢者の方がお昼御飯として、子どもたちと一緒に給食を食べられるようになるのもよいとは思っています。
- 川名委員 栄養管理ができれば、高齢者が元気でいられる時間が長くなるのではないのでしょうか。
- ただ、宝塚市の給食は手が込んでよいが、量が少ないという話を聞きました。
- 中川市長 子どもが自分で残さないように調整して、おかずもおかわりできます。
- 事務局 エネルギーを計算したうえで献立を作成していますが、子どもから量についての要望は聞いていません。献立によっては、残量も多いです。
- 井上教育長 給食費については、公会計移行への準備をしています。市での管理に変わりますので、滞納の課題が出てきます。
- 種谷委員 ある自治体では、3カ月給食費を滞納したら給食が提供できなくなると通知したら、滞納者が43人中3人に減ったと聞きました。

た。

- 川名委員 減免が認められている方を除いて、給食費を支払うのは当然のことですが、先生が催促するのは辛いものがあります。
- 井上教育長 それが一番問題です。議会でも出ていましたが、先生が子どもに伝えることは大変難しいです。公会計になるとその負担はなくなります。
- 種谷委員 公会計になると何が変わりますか。徴収を市が責任持つて行うということですか。
- 中川市長 先生の事務的な負担がなくなります。
現時点での滞納者は何人ですか。
- 事務局 はっきりとした人数はわかりませんが、累積滞納額は約800万円です。
- 中川市長 最近、朝食を食べない、夕食もおにぎりやお菓子とかという中で、子どもの命を守る給食はこれからも頑張っていていかなければならないと思います。
他にどのようなことでも結構ですので、気になっていることがありましたらどうぞ。
- 種谷委員 育成会が今年から小学4年生までになりましたが、国では小学6年生までと決めていたと思います。何か基準があるのですか。
- 中川市長 受け入れ学年は、自治体によって決めています。宝塚市では小学4年生までは受け入れを行っています。小学6年生までの受け入れについては、需要も含めて、できるだけ早い時期に検討していきます。
- 井上委員 学校から家まで帰るときに、事故があれば保険が出ますが、育成会から家に帰るときは、保険はどうなりますか。
- 種谷委員 私の子どもが通っている育成会では、育成会の保護者会の会費から保険料を別途支払っています。
- 川名委員 私は、読書活動をもう一段活発にするにはどうしたらいいか考えています。
- 中川市長 子ども議会でも、蔵書をふやしてほしいとか、漫画を置いてほしいという要望があります。なお、宝塚市ゆかりの手塚作品は全ての学校に全集を置いています。
- 小野教育委員長 不登校に関しては、学校に必ず連れてくるだけではなく、フリースクールのような形も検討していきたいと思っています。
他には、子どもたちの教育格差です。貧困になっても、教育がカバーしていく。格差がそのまま継続されないように、目を向け

ていきたいと思っています。

○中川市長

子どもの貧困は本当に深刻だと思っています。6人に1人と言われていて、それが連鎖していく。家に1冊の本もない、新聞もとってない、そして朝も昼も夜も親が働いていて子どもとの会話もない。そんなときに子どもたちをどう守れるかは大切な課題だと思いますので、また議題にしていきたいと思っています。

○井上委員

大規模校は教頭先生を2名にするように、ぜひ働きかけていただきたいと思っています。

○中川市長

予算との兼ね合いがありますが、子どもたちにしっかり目を届かせていくにはそれも大切な課題ではないかと思っています。各学校の状況を確認しながら考えていってほしいと思っています。

議会での人事案件が通れば、教育長は退任されます。教育長、何か最後の挨拶などありますか。

○井上教育長

就任して最初の年は問題行動が多いと思いましたが、今は、問題行動が激減して全ての学校が落ちつきました。それは、学校の先生の頑張り、と、家庭と地域が連携できたからです。

学力の面でも、宝塚市は県や全国でも高いほうです。そういったことも、保護者や地域にお知らせできるようになりました。今後は、自尊感情の弱いところを強くするように頑張りたいと思っています。

市長には、耐震化100%の目処が付くまで、手厚く予算をつけていただき感謝しています。教育委員の皆さんと一緒に仕事して、様々な意見をもらいながら進められたことは非常に良かったと思います。

また、教育振興基本計画の見直しで皆さんから意見をもらって、これからの宝塚市の教育はどうすべきか、また重点化すべきことを洗い出していますので、今後はそのような方向で進んでいくと思っています。

あとは未来への投資として、教育への配慮をお願いして終わります。

○中川市長

教育長、お疲れさまでした。

それでは、これをもって会議を終了いたします。ありがとうございました。